

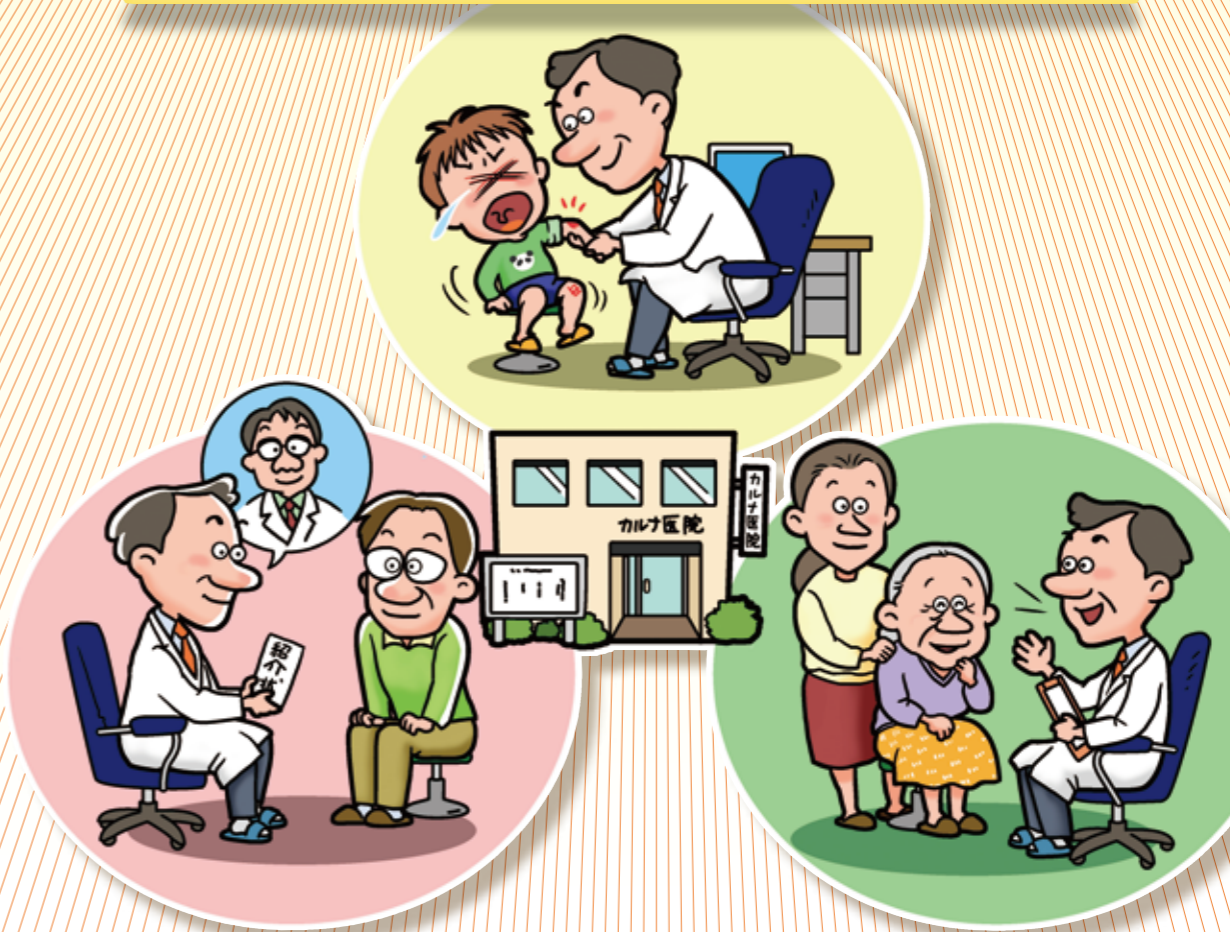
プライマリ・ケアとは何か？

取材協力

名郷直樹院長・
武蔵国分寺公園クリニック

国民医療の新たな要＝ プライマリ・ケアを担う

総合診療医！



わが国の医療の境界を
克服する方法＝
プライマリ・ケア

少子高齢化が急速に進む今日、医療の著しい専門分化や地域偏在、国民医療費の高騰など、私たちの健康と生命を守るわが国の医療にはさまざまな問題が露呈してきています。そうしたなかでこれまでの医療の境界を克服し、より効率的な医療の体制を整えるための一つの方法として、最近、「プライマリ・ケア」「総合診療医」という言葉を耳にします。

今回、日本で先駆的にプライマリ・ケアに取り組んできた総合診療医＝名郷直樹院長（武蔵国分寺公園クリニック）から、「プライマリ・ケア、総合診療とは何か」「プライマリ・ケアを担う総合診療医とはどのような医師か」「地域住民はいかに総合診療医を活用していけばよいのか」とい

取材・文／松沢 実・医療ジャーナリスト

総合診療医とはどのような医師か？

ったことについてお話をうかがえたのでご報告したいと思います。

とりあえず、どのような病気や怪我、健康相談にも乗ってもらえる医療

「プライマリ・ケアとは簡単にいうと、身近にあつて、とりあえずどのような病気や怪我、健康相談にも乗ってもらえる医療、と要約することができます」

開口一番、名郷院長は笑顔でこう指摘します。

ご存じのように大きな総合病院や大学病院では、内科や外科、皮膚科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、精神科などさまざまな数多くの診療科の看板が掲げられています。現状の医療が細かく専門分化しているからです。

「しかし、専門診療科の垣根にとらわれず、地域における最寄りの診療所（クリニック）や中小病院で、日常

的に遭遇する大半の病気や怪我、健康相談、予防などについて、家族全員が生まれてから死ぬまで継続的に診てもらえる医療が、プライマリ・ケアにはほかなりません」

総合病院などの各専門診療科の医師は専門医といわれます。その専門医と区別して、どのような病気でも診るのがプライマリ・ケアで、それを担う医師が総合診療医です。逆説的に言う総合診療医が手掛ける医療を総合診療、プライマリ・ケアと呼んでいるのです。

「英国やオランダ、デンマークなどでは地域に密着し、どのような病気でもまず『一般医』と呼ばれる総合診療医が診察し、必要ならば病院の専門医と連携して治療にあたるなど、プライマリ・ケアを基盤とした非常に効率的な医療の体制が整えられています」

米国も同じような仕組みで、「家庭医」と呼ばれる総合診療医がプライ

マリ・ケアを担っています。総合診療医とはプライマリ・ケアに取り組むヨーロッパの「一般医」、米国の「家庭医」をイメージするとよいでしょう。

「誰でも気楽にかかれる」これが第一条件

もう少しプライマリ・ケア、総合診療について詳しく説明したいと思います。

「プライマリ・ケアは、しばしば『ACCAC』や『ACCC』といわれる5つの理念で説明されます」

すなわち「ACCAC」とは、以下の5つの言葉＝理念の頭文字を並べたものです。

- ① Accessibility 近接性
 - ② Comprehensiveness 包括性
 - ③ Coordination 協調性
 - ④ Continuity 継続性
 - ⑤ Accountability 責任性
- プライマリ・ケアはこの5つの理

念を備えた医療というわけです。一つづつご説明したいと思います。

「まず第一のAccessibility（近接性）とは『かかりやすさ』『かかりやすい医療』という特長があげられます」

すなわち、地理的にも自宅などから近くで、かつ経済的にも手ごろな費用で、時間的にも患者さんの都合のよいときに受診が可能で、精神的にも気軽に診てもらえる医療であるということです。

大半の病気を診てもらえるというのが大きな特長

「第二のComprehensiveness（包括性）とは、高血圧から腰痛、火傷、鼻炎、生理不順、うつなど日常生活で遭遇する大半の病気や怪我の診断・治療はもちろん、予防やリハビリテーションまで、どのような健康上の問題にも包括的に相談に乗ってもらえるという特長があげられます」

加えて、患者さんの家族関係や社会環境などにも十分に目を配りながら適切な医療を提供すると同時に、男女を問わず患者さんを丸ごと診て、全人的医療に取り組むという包括性



名郷直樹 (なごう・なおき) 院長

1961年名古屋生まれ。86年自治医科大学卒業後、名古屋第二赤十字病院で初期臨床研修、88年愛知県作手村国民健康保険診療所長へ。92年自治医科大学地域医療学講座に、94年同大学助手を経て、95年愛知県作手村国民健康保険診療所長。2003年社団法人地域医療振興協会公益事業部地域医療研究所地域医療研修センター長、市立伊東市民病院臨床研修センター長(04~06年)、東京北社会保険病院臨床研修センター長(05~11年)としてへき地医療専門医の育成・研修に携わり、2011年東京・国分寺市に武蔵国分寺公園クリニックを開業して院長に。EBM(科学的根拠に基づく医療)の実践と普及に努めると同時に、あらゆる健康問題に対処するプライマリ・ケアの総合診療医として活躍してきたことから、地域住民をはじめとする患者とその家族から厚い信頼が寄せられている。著書に『EBM実践ワークブック』(南江堂、1999年)、『「人は死ぬ」それでも医師にできること』(医学書院、2008年)、『「健康第一」は間違っている』(筑摩書房、2014年)、『薬で治るといふウソ』(ビジネス社、2015年)など多数。

武蔵国分寺公園クリニック <http://ebm-clinic.com/>
〒185-0023 東京都国分寺市西元町2-16-34-127 電話042-320-4970



名郷直樹院長の武蔵国分寺公園クリニックでも、家庭医療専門医(総合診療医)の研修、トレーニングが行われている

「新専門医制度は基本領域の専門医と、さらにより専門的なサブスペシヤリティ領域専門医の二段階制です。そのうち前者の基本領域の専門医として、従来の内科、外科、整形外科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科など18の臓器別専門医資格と並び、幅広い医学的知識をもとに患者さんを丸ごと診る総合診療(プライマリ・ケア)が新たな専門医の資格として設けられます」

基本領域の専門医資格として新たに総合診療が加えられたのも、プライマリ・ケアを担うためには幅広い医学的知識と専門的な研修が不可欠

「率直に言って、わが国ではプライマリ・ケアを担う総合診療医はまだまだ少ない、と言わざるを得ません。そうした中で日本プライマリ・ケア連合学会が認定する家庭医療専門医ならば総合診療医としての能力を十分に持っていますから、同連合学会の『家庭医療専門医一覽』を見てさがるのも一つの方法だと思います」

あるいは、日本プライマリ・ケア連合学会の総合医や家庭医の研修プログラム(『後期研修プログラム一覽 Ver.2.0』)を持つ医療機関の名簿などから、プライマリ・ケアに取り組む総合診療医をさがせるのではないのでしょうか。

いまや患者サイドに立った国民医療の再構築は、待ったなしの状態と

日本プライマリ・ケア連合学会
「家庭医療専門医一覽」
http://www.primary-care.or.jp/nintei_fp/fp_list.html

日本プライマリ・ケア連合学会
「後期研修プログラム一覽 Ver.2.0」
http://www.primary-care.or.jp/nintei_pg/pg_list02.html

いえます。プライマリ・ケアに取り組む総合診療医にかかることができれば、患者さんとその家族はより軽い負担で、より適切な医療を受けられ、より健やかな日々を過ごせるようになるのでは……と期待されます。

私たちもプライマリ・ケアや総合診療医についての理解を深め、患者さんとその家族の側からプライマリ・ケアの普及を強く望んでいくことが求められています。

新たな専門医制度



も、プライマリ・ケアの大きな特長といえます。

「第三の Coordination (協調性) とは、必要であれば病院の専門医と密接に連携し、診断・治療にあたるという特長があげられます」

無論、連携するのは病院の専門医だけではありません。地域の薬剤師や訪問看護師、あるいはケアマネージャー(介護支援専門員)やホームヘルパー(訪問介護員)など地域の介護スタッフなどの多職種とも連携し、チームの一員として取り組むこともプライマリ・ケアの大きな特長です。

患者さんの健康にこそ生まれてから死ぬまで丸ごと責任を持つ

「第四の Continuity (継続性) とは、生まれてから死ぬまで、病気のときはもちろん、健康なときも相談に乗る、個々の患者さんを継続的に診るという特長があげられます」

体力が衰えるなどして外来に来られなくなった患者さんには、往診や訪問診療などで継続的に診て、看取りまで行うことなどが含まれます。

「第五の Accountability (責任性) とは、主治医制と言っていないかもしれませんが、患者さんの健康について責任を持ち続けるというのがプライマリ・ケアといえます」

常日ごろから質の高い医療内容の維持に努め、患者さんに十分な説明を行い、積極的に意思疎通をはかることなど、医師としての責任を十全に果たしていくというのがプライマリ・ケアにほかなりません。

たしかに Accountability (責任性) は、プライマリ・ケアに限ったことではありません。しかし、プライマリ

リ・ケアに取り組む総合診療医には、病気をよくする責任だけではなく、日々の生活を支援するための責任が求められることが特長でしょう。

ちなみに「ACCC A」の最後の「A」は Accountability (責任性) を、Contextual (文脈性) の「C」に置き換えたものが先述した「ACCC C」です。Contextual (文脈性) とは個々の患者さんのそれまでとこれからの暮らし方、生き方、考え方、人生を踏まえた医療を行うという意味です。

街の開業医は総合診療医じゃない！

いままでの説明をお読みになり、「なんだ、プライマリ・ケアとはうちの近くのクリニックの先生が行っている医療と同じものではないか。総合診療医とはクリニックの開業医の先生のことなのでは……」と思われる方も多いのではないのでしょうか。

しかし、それはまったく違います。「日本の開業医は、もともと大学病院や総合病院の専門診療科で研修し、専門医として活躍してきた医師がほとんどです。たとえば高血圧や動脈

臓器別専門医資格と並び、新たに創設される総合診療専門医の資格

現在、厚労省は日本専門医療機構のもとで再来年度(2018年度)から新たな新専門医制度を発足させようとしています。

硬化症などを専門的に診ていた内科の専門医が、開業した途端、腰痛や火傷、鼻炎、生理不順、うつなどの専門外の病気をきちんと診られるのかといえ、そんなわけはありません」

患者さんの側もそのことをよく知っていることから、最寄りのクリニックにかかるにしても、高血圧ならば「内科」、腰痛ならば「整形外科」、鼻炎ならば「耳鼻咽喉科」、生理不順ならば「産婦人科」、うつならば「精神科」の看板を掲げたクリニックを受診しているのではないのでしょうか。

「総合診療医が担うプライマリ・ケアは、日常生活で遭遇しやすいさまざまな数多くの病気について幅広く学び、大半の病気や怪我などについて適切に診断・治療ができる専門的な研修、トレーニングを積んでこそ、初めて可能となる医療なのです」